

学科 学年	1	科目 分類	プログラミング演 習 I Computer programming I	演習 必修	H21通 年 2単位	学習教育 目標 B	担当	宮下 真信 MIYASHITA Masanobu
概 要	情報処理機器や機械などの制御において、コンピュータシステムのプログラミングは必要不可欠です。本演習では、コンピュータの基本的操作、オペレーティングシステムの基礎、C言語によるプログラミングの基礎について学習します。							
科目目標 (到達目標)	(1) コンピュータの基本的な捜査や情報倫理の理解していること。 (2) オペレーティングシステムの基本的なコマンド操作ができること。 (3) プログラムの動作手順(フローチャート)を記述し、動作手順に沿ってC言語でプログラミングができること。 (4) プログラムが正しく動作しているかを調べる(デバグ)ことができること。デバグに必要なテストプログラムを作成できること。 (5) 既存のプログラムを読み、動作手順を理解できること。							
教科書 器材等	はじめてのUNIX入門 小林真也(監修)他 森北出版 C言語演習 白井修二(著)他 森北出版							
評価の基準と 方法	C言語プログラミング(1-9)の課題に関するレポートの内容と口頭試問によって評価をします。全てのレポートを提出することが単位を修得するための必須条件となります。また、レポートの提出が遅れた場合は、減点対象となるので注意してください。							
関連科目	計算機入門							
授業計画								
	参観	(授業は原則として教員が自由に参加できますが、参観欄に×印がある回は参観できません。)						
第1回		オリエンテーション： プログラミング演習の進め方、レポートの書き方						
第2回		情報倫理： コンピュータを使うときのルール						
第3回		オペレーティングシステム1： ディレクトリ、フォルダの基本構造						
第4回		オペレーティングシステム2： 基本コマンド						
第5回		エディタの使い方： 文書やプログラムの入力方法、フローチャートの書き方						
第6回		C言語プログラミング1： プログラムの入力と実行方法、コンパイラ						
第7回		C言語プログラミング2： 書式付入力と出力						
第8回		C言語プログラミング3： 変数の型宣言(整数型)と配列						
第9回		C言語プログラミング4： 変数の型宣言(実数型)と配列						
第10回		C言語プログラミング5： 四則演算の方法						
第11回		C言語プログラミング6： 条件文						
第12回		C言語プログラミング7： 繰り返し文(forループ)						
第13回		C言語プログラミング8： 繰り返し文(2重配列)						
第14回		C言語プログラミング9： 繰り返し文(whileループ)						
第15回	×	総合演習とアンケート(16回目がある場合には、自由課題のプログラムを作成)						
オフィス アワー		木曜16:00-17:00						
授業アンケ ートへの対応								
備 考								
更新履歴		20090327 新規						